



はつろん NEWS

NO. 1 6
H21年3月

おかげさまで理事会に最後の計画案を提出し、承認していただくことができました。策定に関わっていただいたみなさま、本当にありがとうございました。計画そのものの実行はこれからが大事なところですが、今回は策定にかかるニュースの最終号として、これまで策定に関わっていただいた方々からのコメントをいただき、実行にむけての再スタートにつなげていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします！！

3月の経過報告

職場内合同ケース会議 3 / 4
職員ミーティング 3 / 5

第5回策定委員会 3 / 9

最終の計画案を提案し、承認していただきました。

滝川学区福祉活動計画 策定委員会 3 / 10 最終案がまとまりました。

推進協会長連絡会 3 / 18

本計画における推進協に関連する事項について相談し、意見をいただきました。

理事会 3 / 23 評議員会 3 / 25

最終の計画案を提案し、最終案が承認されました。



策定にあたって ~メッセージ~

策定委員長 浅井 昌則 氏
(昭和区社会福祉協議会 会長)

様々な会議に多数の皆様のご参加をいただき、この計画を作ることができました。本当にありがとうございました。1年以上かけて作った計画は、前回の計画よりも一層身近で活用できるようなものになったと自負しております。まずは自分の学区の推進協から、計画を参考に進めていきたいと思えます。

これで策定に関わる会議は終わりますが、みなさまにはこれからも引き続き関わっていただき、ご協力をいただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

副策定委員長 原田 正樹 氏
(日本福祉大学 准教授)

昭和区はどんな地域なんだろう。そこにはどんな人たちが、どんな想いで暮らしているのだろう。新しいフィールドに関わるとき、いつもドキドキしている。短期間な計画策定にもかかわらず、たくさんの区民のみなさん、関係者、そして社協職員が一丸となって取り組まれた昭和区のエネルギーに感服した。もちろん課題もたくさんあるが、まずは次のステージにむけて動きだそう。これから昭和区の地域福祉がどんな発展をしていくか、ワクワクして見守ってきたい。

昭和区長 市川 泰生 氏

行政だけではできないことがあります。区社協だけではできないことがあります。専門家だけでも区民のみなさんだけでもできないことがあります。しかし、力を合わせれば、できることの範囲は大きく広がります。そのことを、この計画の策定のプロセスと結果が証明しているとしみじみ感じます。福祉活動計画の策定が終わりました。区役所も現在、21年度区政運営方針を策定しています。みんなにやさしいまちにしたいと思っています。さあ、これからがスタートですね。一緒にがんばりましょう。

専門職部会長 塚田 規夫 氏（塚田外科院長）

介護、福祉サービスなどが必要にもかかわらず、どういう支援をしてくれるのか、またどこへ（どのように）相談すれば的確なサービスを受けられるのかが分からず結局苦しい生活をしている、いわゆる生活弱者。

児童・障害・高齢など分野を分けず、これらの人を少しでも救い、より豊かな生活をしてもらいたいという気持ちから発足した専門職部会。そのために支援される側（地域住民）からの問題点をより多く拾い上げ、支援する立場の保健・福祉・医療など分野を超えた約 20 名のメンバーが毎月集まり、意見を出し合い、どのようにしたら迅速に、しかも的確なサービス・支援が行えるか、熱い議論の中、話し合っただけで済ませず、そしてようやく支援システムができましたが、まだとても完成品ではありません。今後より具体的に充実したシステムに近づけていけたらと思っています。

作業部会 ワーキンググループ【場づくり】

世話人 日比野勝氏（なごやかスタッフ）

<場づくり決意表明>

場づくりワーキングメンバー8人衆は、第2次計画ではより身近な地域で集まれる場として、歩いていけるような範囲に「たまり場」を作っていくこととしました。また、たまり場づくりを推進するプロジェクトチームを立ち上げ、世話人募集、たまり場候補地募集、立ち上げ支援、たまり場世話人交流会、研修会等を具体的に人と場所と地域を福祉推進協議会と協力し、たまり場の開催につなげていきます。プロジェクトチームのメンバーはワーキンググループ員8名を中心に立ち上げ、活動します。学区・町内の皆様の協力ご支援をよろしくお願い致します。

作業部会ワーキンググループ【福祉意識】

世話人 三好宏和氏（AJU 自立の家）

1年間の福祉意識ワーキングを通じて、本当に多くの方にご協力頂きましてありがとうございました。まだまだ福祉施設や障害者への偏見もありますが、障害があっても地域で暮らしたいという思いは皆同じです。まずはお互いに知ることが大事だと思います。計画作りも勿論大切ですが、目的を達成する為、障害があるだけで偏見を持たれてしまう人達の為に、これからどう実行していくかが重要かと思っています。今後とも皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

作業部会 ワーキンググループ【担い手】

世話人 浅野邦伸 氏（保護司会）

従来、公助として言わば上から与えられるのを待つ形で受けてきた感のある福祉。これを地域でニーズをひろい互助・共助で作上げる形にしたい。これが今や運動とも言うべき全国的な流れであり、それに応える担い手やいかに、がテーマの作業部会ワーキンググループでのしゃべり場は、楽しくかつ有意義な勉強の場でもあり、新しい人や言葉との出会いの場でもあった。

作業部会ワーキンググループ【福祉課題】

世話人 堀井伸夫氏（民生委員児童委員）

平成 15 年に一次計画として、いつまでも安心して暮らせる昭和区をめざして、何をどのようにしたらよいかを検討されてきました。それをふまえ、さらに住民が困った時どこへ救いの手を求めたらよいか分かるガイドブックを作ろうということになりました。様々な組織や団体の活動をうまく利用できることでより大きな住民の安心が得られることを目的とします。絵に描いた餅よりも、少しでもよいかから食べられる餅を区民のみなさんへ提供したいと思っています。

昭和区社会福祉協議会 事務局長 安藤 隆

1年余りの策定作業を経て、今年の3月に第2次活動計画ができあがりしました。

計画策定作業に携わっていただきました作業部会ワーキンググループの皆さん、専門職部会のメンバーの皆さん、また策定委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。いよいよこれから第2次活動計画がスタートいたしますが、この計画は5年後の昭和区がこうありたいという皆さんの思いがいっぱい詰まった集大成です。これから活動計画を進めるにあたっては、区民の皆さんとともに昭和区社協の全職員も一丸となって「総合支援型社協」を目指し、計画の目標達成に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、私は4月1日付けで名東区社協へ異動することになりましたが、後任の柏事務局長にきちんと引継いでまいりますので、よろしくお願いいたします。